

(別紙)

令和7年度若年層向け女性に対する暴力防止に係る広報・啓発事業(アイデアソン) 学生意見

以下の中から可能な限り多くの意見を反映させること。

- ① SNS の過剰利用や依存からの脱却を促進
- ② 情報の取捨選択や発信方法を意識するきっかけに
- ③ 堅苦しくならないようにキャラクター等を活用して親しみやすいイメージを与える。
- ④ 心理的ストレス軽減や生活の充実に繋がる利用法の提案
- ⑤ 時間管理意識の向上とデジタルデトックスの推奨
- ⑥ SNS とリアルな人間関係のバランスを取る重要性の啓発
- ⑦ まずは相談することが大切
- ⑧ 被害者は悪くない
- ⑨ 被害は誰にでも起こりうる
- ⑩ ルッキズムは有名人やモデルだけの問題ではない
- ⑪ 普段の投稿・いいね・コメントが、誰かを傷つけている可能性がある
- ⑫ 「見る側・書く側の自分も関係者」だと気づかせる
- ⑬ フィルター・加工・角度・照明で作られた姿が当たり前
- ⑭ 比較して落ち込む必要はない
- ⑮ ‘‘盛れた姿’’を基準にすること自体が不自然
- ⑯ 容姿いじり・冗談のつもりのコメントも、スクショされ拡散される
- ⑰ ネット上の言葉は消せない
- ⑱ ルッキズムはデジタルいじめにつながる
- ⑲ ルッキズムを否定することは、他人のためではなく自分のため
- ⑳ 比較・自己否定・容姿コンプレックスから解放される
- ㉑ ‘‘ありのままの自分でもいい’’という価値観
- ㉒ 責められるべきは DV 被害者じゃない
- ㉓ スマホのなかにも DV はある
- ㉔ DV に性別は関係ない
- ㉕ 殴られるだけが DV じゃない
- ㉖ 優しさがあるから DV がないとは限らない
- ㉗ 助けを求めるのは弱さじゃない
- ㉘ デート DV になる可能性がある行為を紹介して、見ている人に自分の行動や状況が当てはまっているかよく考えてもらう。
- ㉙ 自分たちが日常の中で気づいていないことがデート DV に当てはまるかもしれないことを知ってもらう。